



# 弘大農学生命科学部 同窓会会報

## 第43号

令和7年5月 発行  
発行 弘前大学農学生命科学部同窓会  
TEL 0172-36-2111  
FAX 0172-39-3750  
振替 02340-7-564  
印刷 やまと印刷株式会社





## ごあいさつ

同窓会長 高谷 清孝

同窓生の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、東信行学部長をはじめ関係者の皆様には、同窓会の運営にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

令和6年度を振り返りますと、弘前大学がスタートさせた「校愛会事業」に、同窓会として参画したことが最大の出来事であったかと思えます。また、参画したことで、それまでの年会費に代わり、校愛会への寄附金等で同窓会を運営する仕組みに変更いたしました。具体的には、皆様が校愛会へ寄附いたしますと、その大半が大学から同窓会に補助され、同窓会では、原則としてそれを運営費に充てて事業に取り組むというものです。

しかし、初年度目ということもあったかも知れませんが、皆様から校愛会へご寄附いただいた額が令和5年度までの会費納入額を大幅に下回る結果となってしまう、校愛会事業の周知不足を反省しているところです。

さて、令和7年度は、農学生命科学部の前身である農学部が創設されてから70周年という記念すべき年となります。加えて、青森県を代表する農産物のりんごが、明治8年に県内で初めて植栽されてから150周年にあたるほか、昭和元年から数えて100年という節目の年でもあります。

農学生命科学部は、昭和30年7月に前身の農学部が当時の文理学部から独立する形で創設され、平成9年度に理学部から生物学科が移設されたことに伴い農学生命科学部へ改称、平成28年度から5学科に再編成されて今日に至っています。

また、入学定員数は、当初の40人から現在では215人と大幅に増加し、卒業生も令和6年度までで9,110人に上っています。

農学生命科学部が創立70周年を迎えられますこと心からお喜び申し上げますとともに、学部発展のために、これまでご尽力されてこられた方々に深く敬意を表する次第です。

我が国においては、人口減少や少子化に伴って子供の数が減り続けており、優秀な学生を獲得する上で、大学間の競争は年々厳しさを増していくものと思いますが、これからも弘前大学が掲げる「世界に発信し、地域と共に創造する。」のスローガンの下、立地特性などを生かしながら持続的に発展していかれることをご期待いたします。

結びに、同窓会では、会報の発行や学部校内整備への協賛、卒業祝賀会の共催などの事業に取り組んでいますが、印刷費や郵送料の値上げの影響等により予算の確保が年々難しくなっています。どうか皆様には、校愛会へのご寄附に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

また、同窓会へのご意見やご要望、支部同窓会の活動状況等の情報提供につきましても事務局へお寄せくださるようお願いいたします。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



## 学部 70 周年以降に向けて

農学生命科学部長 東 信 行

同窓会の皆様並びに関係者の皆さまには、同窓会の運営にご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

1955年（昭和30年）に発足した農学部は、農学生命科学部として本年70周年の節目の年を迎えます。現在、12月の記念式典等の開催に向けて、皆様のご協力を得ながら準備を進めているところです。30年後の100周年に本学部がどのような姿になっているかを想像しがたいほど、現在の大学を取り巻く状況は激しく変化していますが、学部教職員は日々の変化に対して最善と思われる方向に前進しているところです。

昨年、弘前大学の同窓会組織が大きく様変わりして、弘前大学校愛会として全学組織がスタートしました。これに対して戸惑われている会員の方がいらっしゃるのではないかと懸念しておりますが、学部同窓会は現在も変わらず存在していますので、変わらぬ御支援を改めてお願いしたいと存じます。大学の置かれている状況は今まで以上に、同窓会の皆様からの応援を必要としております。

昨年も能登をはじめ多くの自然災害があり、青森も大きな地震や水害はなかったものの、年度の後半になって豪雪が災害として襲い掛かりました。特に農業にかかわる人間にとっては、今年は様々立て直す必要があるレベルの被害となっています。ここ数年の猛暑も含め、改めて気候の変化に対応できる第一次産業への貢献を、学部としても一丸となって取り組む必要を感じています。昨年も申し上げましたが、大学の研究等が社会にお

ける羅針盤の一つになる必要があると考えておりますので、関連する現場で働いていらっしゃる同窓生のお力を借りる機会がより重要になってきます。

昨年来、米をはじめとする必需品の物価上昇を実感するようになりました。賃金上昇はまだそれに追いついておりませんが、大学への運営費交付金も物価スライドに対応していないことから、大学の経営も非常に苦しい状況に追い込まれており、研究や教育の現場にも影響が出始めております。そして、受験生人口の減少も顕在化してきており、これからの大学運営は改革を余儀なくされています。学生たちにより良い教育を提供し、優れた研究を発信し、社会に貢献する学部としてどのように変化あるいは進化してゆくべきか、皆様のご意見を伺いながら進めていきたいと存じます。

現状は、間違いなく同窓会のご支援が必要な状況にあります。学部100周年の時に後悔しないためにも、いまこそ関係者が一丸となる時と感じています。あらためて、母校に目をむけて頂き、ご指導や応援をいただきたくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



## 定年退職教員からの寄稿



## 弘前大学での30余年の思い出

生物学科 黒尾正樹

昨今の地球温暖化の影響をもろに受けた弘前市の異常気象からは全く考えられないことですが、私が本学理学部に赴任した1994年の7月1日当時のことを思い出しますとまさに隔世の感があります。その日は朝から曇っていて陽ざしがなかったとはいえ、半袖のシャツを着ていると肌寒ささえ感じてカーディガンを羽織るほどに、弘前市の気候は冷涼だったのです。夏でこの状態ですから、当然のことながら真冬は寒さが厳しく、朝晩の雪かきが日課のようにになった頃には、「どうして就職先にこんなところを選んでしまったのだろう？」と千葉県からやってきた軟弱者の私には後悔の念さえ浮かびました。

コラボレーション・センター3階の研究室の設計は、後になっては反省材料が山積することとなりました。1999年当時は、弘前市の気候は引き続きまだ冷涼で、現在の茹だるような暑さとは無縁でした。未来の予想が全くできなかつたので、なるべく小さなスペースを作らないようにと広い実験室を設計したのがいけませんでした。年々気温が上昇したために冷房が必要になったのですが、

広い部屋には大型のクーラーが必要で巨額の費用が掛かるためにそれに対応できず、今日でも夏は冷房のない日々を過ごさねばならなくなっています。

そんな不都合なこともあったのですが、青森県は信じられないほど自然環境が豊かで、ちょっと足を延ばせば都市部ではめったに出会えない生物との遭遇が毎月のようにあり、精神衛生と研究において大いに恩恵を受けました。私にとって特に思い出深いのは、ハコネサンショウウオ属の新種（キタオウシュウサンショウウオ *Onychodactylus nipponoborealis* と命名）の記載論文を、ロシア、中国、韓国およびスペインの研究者と共同で執筆することになり、弘前市の座頭石の沢にトラップを仕掛けて日々それを点検し、やっとの思いでメス1頭の捕獲に成功したことです。後の偶然のできごとから平川市の矢捨山で一度に複数の個体を手に入れたので、京都大学との競争に敗れることなく論文の出版に漕ぎつけたのは誠に幸運でした。

末筆ではございますが、同窓会および同窓生の今後の発展を祈念致しております。



キタオウシュウサンショウウオ

## 定年退職教員からの寄稿



## tmRNAとの出会い

分子生命科学科 姫野 俵 太

ここ数十年で、生物の仕組みについての理解が圧倒的に進みました。実に複雑かつ巧妙で、隙がありません。その一方でとても柔軟です。生物という機械は、自分は壊れても子孫を残し続けるという形で続いてきました。とても不思議な機械ですが、四十数億年前に最初の一つがどのようにして生まれたのかについては、空想することすら難しい状態です。子孫を残し続けることができるのは、自分自身の中に設計図を持っているからです。設計図（遺伝子）をもとにして作られる部品（タンパク質）は、生体内でさまざまな機能を果たします。RNAは設計図そのもの、あるいは設計図を読み取る装置の主要部分であり、生命の起源を考える上での鍵となります。私は32年前に弘前大学に赴任し、武藤先生と牛田先生に10Sa RNAというRNAを紹介してもらいました。武藤先生はすでにこのRNAが部分的にtRNA（タンパク質合成装置の一部）と似ていることを発見していましたが、そのことがこのRNAの謎を際立たせているように思えました。約2年の時を経て、答えに辿り着きました。実に綺麗な答えでした。このRNAは装置の一部（tRNA）であると同時に設計図の一部（mRNA）でもあったのです。読み取る側と読み取られる側が一体化したものの、すなわちtRNA + mRNAということで、tmRNAと呼ばれるようになりました。同時に、このRNAは「2分子のmRNAから1分子のタンパク質を合成する」という奇妙なタンパク質合成（翻訳）を行うこともわかりました。この新奇の翻訳はトランスランスレーションと呼ばれるようになりました。トランスランスレーションは

これまでに想定されていなかった生体システム、すなわち「予期せずにとまってしまったタンパク質合成を解消するシステム」の存在を浮き彫りにしました。

答えがわからない期間は苦しいものでしたが、楽しくもありました。皆で答えを模索し、妄想を語り合い、失敗覚悟で実験を繰り返しました。答えに行き着いた時の感触は今でも覚えています。苦しみが長かったからこそその感触です。答えがわかってからは新規参入者が増え、競争は激化しました。程なく「tmRNAによるトランスランスレーション」は分子生物学の著名な教科書に掲載されるようになりました。新しいことを発見することは研究者にとってこの上もない喜びですが、簡単なことではありません。このような貴重な体験をすることができたのは、弘前に来たからこそだと思っています。共に戦い、苦楽を共にした学生および教員の皆様に感謝します。最後に一言：オリジナリティーを求める精神を失わないこと、そしてセレンディピティを見逃さない感性を磨くことを忘れないようにしてください。



## 定年退職教員からの寄稿



## 農場専任教員として24年間

生物共生教育研究センター 伊藤 大 雄

2001年に着任して以来、24年間を生物共生教育研究センター藤崎農場の専任教員として過ごしました。学生や卒業生の皆様を含め、周囲の皆様を支えられて退職の日を迎えられることを心より感謝しています。

研究では果樹園芸学と農業気象学の2分野で幅広い研究を行いました。果樹園芸学分野では、農場を最大限利用して、リンゴの新たな栽培システムの開発を目指し、有機栽培試験を10年間、特別栽培試験を3年間、平圃栽培試験を20年間実施しました。果樹園芸学研究室の学生さんと一緒に研究を進めることもできました。一方農業気象学分野では、光合成や物質生産の視点からリンゴ園・リンゴ樹の気象生態研究に取り組みましたが、農業気象学の研究室が途中で消滅したため、学部内の研究室と協働するどころか私自身が農業気象学の授業を担当することになりました。しかし、学部内外で良い共同研究者に恵まれ、2018年から農場に環境制御温室を建設して大規模な地球温暖化影響研究を主導させて頂いたことは、特に印象深い思い出です。「2分野で幅広い研究」と言っても、研究対象はリンゴばかりでした。私はかつて農林水産省で桑栽培の研究に従事しましたが、養蚕業は衰退の一途で、研究のモチベーションを保つのが難しい環境でした。ですから日本一のリンゴ産地で生産者の期待を感じながらリンゴの研究に従事できたことは大きな喜びでした。

農場専任教員にとって、教育上の大きな役割は農場実習の担当です。私は学生達が研究室に配属されて取り組む基礎研究が、どうすれば生産現場に結びつくのか考えて欲しいと思って取り組んできましたが、どのような実習形態がその目的を達

成出来るのか、未だに答えが出ていません。それでも、出来るだけ多種多様な体験をしてもらいたいと思い、研究上の専門を離れて野菜やチューリップやトラクターの実習も担当しました。

最後に、藤崎農場正門から続く並木道の現況を写真で紹介します(2025年3月撮影)。道の右側は農林省東北農業試験場の時代から栽植されている古木で、既に半分以上枯れてしまいましたが残存木は樹齢80年前後です。一方、道の左側は1991年の19号台風でほぼ全て倒れてしまいました。しかし、北海道大学農場の有名なポプラ並木に似ている当農場の並木道を愛する学部教員の働きかけで、早速右側と同じ樹種(アオトドマツ)が北海道から取り寄せられて植え直されました。私が着任した時、左側の樹高は4~5mでしたが、いつの間にか右側と肩を並べるまでに成長しました。この並木道を見ながら24年間の農場教員生活を振り返ると感慨深いものがあります。

農学生命科学部と同窓生の皆様のご発展を心よりお祈りします。



藤崎農場正門から続く並木道。右奥が管理棟。

## 令和6年度卒業生・修了生の卒業式・進学先

令和7年3月24日に、令和6年度の農学生命科学部卒業証書授与式および大学院農学生命科学研究科の学位記授与式が行われた。今年度の学部卒業生は206名、大学院修士課程修了生は56名で、農学部と農学生命科学部をあわせた卒業生は9,110名、研究科修了生は1,428名となった。

式典の様子はオンラインでライブ配信された。卒業・修了生には学部に戻り学位記が手渡された。また、祝賀会兼同窓会歓迎会も新型コロナウイルス流行前と同様に開催された。この巣立ちの日がより記憶に残るものであることを期待するとともに、今後のご活躍を祈念する。

本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各1名である）。（令和7年3月25日現在）



### 生物学科

トランス・コスモス（株）、ライオン（株）、（株）IDOM、（株）サンデー、（株）シンクアクト、（株）テクノプロ・コンストラクション、（株）東京インテリア家具、宮城県職員、栗原市職員、国土交通省 北海道開発局、青森オリンパス（株）、青森県職員、村上農園（株）、北海道公立学校、北広島市職員、木部建設（株）、林野庁、弘前大学大学院（17）、神戸大学大学院、千葉大学大学院、大阪公立大学大学院

### 分子生命科学科

アドバンテック（株）、シンプレクス・ホールディングス（株）、ニプロファーマ（株）、ワダカン（株）、河村化工（株）、学校法人常葉大学、（株）Grise HOME、（株）あべはんグループ、（株）カメガヤ、（株）シャンソン化粧品、（株）ストラテジーテック・コンサルティング、（株）ダイゾー、（株）ベルパーク、（株）丸山運送、（株）日立システムズ、国立大学法人東京大学、秦野市職員、青森県公立学校、第一三共ケミカルファーマ（株）、鶴岡市職員、東北化学薬品（株）、農林水産省、

文部科学省、野口観光(株)、野村マイクロ・サイエンス(株)、弘前大学大学院(9)、東京大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学(2)、北海道大学大学院(2)

#### 食料資源学科

アピ(株)、イトウ製菓(株)、カネジン食品(株)東京営業所、パーソルビジネスプロセスデザイン(株)、ブリヂストンリテールジャパン(株)、ホクレン農業協同組合連合会、(株)DCS、(株)アークス、(株)アイロムグループ、(株)エースディレクション、(株)カスミ、(株)キャメル珈琲、(株)セコマ、(株)ソリトンシステムズ、(株)ドトールコーヒー、(株)マエダ、(株)ユニバース、(株)レイズインターナショナル、(株)ロイズコンフェクト(2)、(株)ローソン、(株)虎屋、(株)清川屋、(株)日本デリカサービス、岩手県職員、紅屋商事(株)、山形県公立学校、小川香料(株)、青森県職員(2)、地方独立行政法人青森県産業技術センター、東洋製罐グループホールディングス(株)、日本食研(株)、福岡県職員、防衛省・自衛隊、北海道公立学校、北海道職員(2)、北海道電力ネットワーク(株)、弘前大学大学院(12)、東北大学大学院

#### 国際園芸農学科

あいおいニッセイ同和損害保険(株)、こども家庭庁、タキイ種苗(株)、ファームドゥホールディングス(株)、ホクレン農業協同組合連合会、(株)アワーズ、(株)ウィルオブ・コンストラクション、(株)エヌティ・ソリューションズ、(株)クスリのアオキ、(株)サカイ引越センター、(株)ホロンシステム、(株)ユニバース、(株)ライフコーポレーション、(株)青森みちのく銀行、宮城県職員、弘前市職員、弘前地区消防事務組合、札幌市公立学校、秋田県職員、青森県市町村職員共済組合、青森県職員(4)、仙台農業共同組合、長野県公立学校、東京青果(株)、日本S E(株)、農家(4)、弘前大学大学院(5)、帯広畜産大学大学院

#### 地域環境工学科

NTCコンサルタンツ(株)、愛知県職員、(株)テレビ北海道、(株)ドーコン(3)、(株)竹中土木、(株)長野技研、国土交通省 北海道開発局、国

立研究開発法人土木研究所、札幌市職員(3)、三井住友建設(株)、青森県職員(2)、藤枝市職員、農林水産省(2)、農林水産省 東北農政局(3)、平川市職員、陸奥テックコンサルタント(株)、弘前大学大学院(4)、慶應義塾大学大学院、

#### <大学院農学生命科学研究科修了生>

##### 生物学コース

アース環境サービス(株)、アジア航測(株)、セントケア九州(株)、ソレキア(株)、リコーITソリューションズ(株)、(株)いわちく、(株)シー・アイ・シー、(株)ナレッジコミュニケーション、(株)伊藤園、(株)自然農園グループ、新潟県職員(2)、東杜シーテック(株)、東北緑化環境保全(株)、日鉄ソリューションズ東日本(株)、八千代エンジニアリング(株)、北海道職員、林野庁 北海道森林管理局、岩手大学大学院連合、東京大学大学院

##### 分子生命科学コース

テルモ(株)、ニプロファーマ(株)(2)、ニプロ(株)(2)、(株)テクノプロ テクノプロ・R&D社、(株)明治、(株)陽進堂、大日精化工業(株)、中外製薬工業(株)、岩手大学大学院(2)、信州大学大学院

##### 食料資源学コース

千葉県職員、地方独立行政法人青森県産業技術センター(2)、東京電力ホールディングス(株)、北興化学工業(株)

##### 国際園芸農学コース

UHA味覚糖(株)、オイシックス・ラ・大地(株)、(株)サンデー、(株)ワールドインテック、(株)潤工社、日立Astemo(株)、農家、岩手大学大学院(2)

##### 地域環境工学コース

NTCコンサルタンツ(株)、(株)安藤・間、建設集団、東亜建設工業(株)、東北電力(株)

## 新任教員の自己紹介



森 井 悠 太 准教授（生物学科）

2024年4月に着任しました、森井悠太（もりいゆうた）と申します。地球を彩る生物多様性の創出と維持のメカニズムを解き明かすべく、野外調査、飼育実験、行動観察、形態解析、遺伝解析など様々な手法を駆使して研

究を行っています。他にも、外来生物に対する市民科学団体の運営など、複数のプロジェクトを手がけています。白神山地や岩木山、八甲田山に代表される青森の豊かな自然を活用して、世界的な学術研究を発信していきたいと思っています。



岸 岡 智 也 助教（地域環境工学科）

2024年4月に地域環境工学科に着任いたしました。専門は農村計画学で、農村の地域活性化や野生動物保護管理に関して住民意識や主体間の連携体制などをテーマに社会科学的な研究を行っています。青森県の魅力や地域

課題からも研究テーマを見出して、地域に貢献できるような成果も出していければと考えています。野鳥をはじめ生き物好きでもあるので、他学科の先生方とも交流を深めながら新たな分野のテーマにも挑戦していければと思います。



藤 田 一 輝 助教（食料資源学科）

令和6年7月付けで農学生命科学部・食料資源学科に着任しました、藤田一輝と申します。専門は土壌学で、土壌における元素循環や土壌微生物の機能に関する研究に取り組んできました。今後は、これまでの研究をさら

に発展させ、土壌や微生物の機能を活かした持続可能な農業や環境保全に貢献したいと考えています。さらに、学部や地域の発展にも貢献できるよう邁進する所存です。どうぞよろしく願いいたします。

## 教職員人事

退職（定年退職） 令和7年3月31日

黒尾 正樹（くろお まさき）  
教授（生物学科）

姫野 俵太（ひめの ひょうた）  
教授（分子生命科学科）

伊藤 大雄（いとう だいゆう）  
教授（生物共生教育研究センター）

退職（辞職） 令和7年3月31日

千田 峰生（せんだ みねお）  
教授（食料資源学科）

採用（新任）

令和6年4月1日  
森井 悠太（もりい ゆうた）  
助教（生物学科）

岸岡 智也（きしおか ともや）  
助教（地域環境工学科）

令和6年7月1日  
藤田 一輝（ふじた かずき）  
助教（食料資源学科）

昇任

令和6年4月1日  
森田 英嗣（もりた えいじ）  
教授（分子生命科学科）

遠藤 明（えんどう あきら）  
教授（地域環境工学科）

令和6年6月1日  
成田 拓未（なりた たくみ）  
教授（国際園芸農学科）

## 令和7-8年度 同窓会総会開催のご案内

令和7-8年度の総会を下記の通り開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

日時：2025年7月5日（土） 午後3時

場所：弘前大学農学生命科学部 203講義室（なお、情報交換会等は実施しない）

議題：

- 1 令和5-6年度事業報告
- 2 令和5-6年度会計報告
- 3 令和7-8年度事業計画
- 4 令和7-8年度予算
- 5 令和7-8年度役員
- 6 その他

総会の情報は、弘前大学農学生命科学部同窓会ホームページ（<https://nature.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>）でも告知いたします。最新の情報はこちらからご確認ください。（スマートフォンなどご利用の方は、下記のQRコードからも同窓会ホームページにアクセスできます）。



弘前大学農学生命科学部同窓会事務局

## 農学生命科学部創立70周年記念式典・祝賀会のご案内

記念式典、記念講演および祝賀会が下記の通り開催予定です。皆様のご出席をお待ちしております。

開催年月日：令和7年12月6日（土）

〈記念式典〉 13：00～13：45／弘前大学50周年記念会館みちのくホール

〈記念講演〉 14：00～15：30／同上

1部 ①京都大学 山尾 僚 氏

②JT生命誌研究館 尾崎 克久 氏

2部 ①弘前市観光部長 白戸 麻紀子 氏

〈祝賀会〉 16：00～18：00／弘前大学会館3階大集会室

記念講演の演題や祝賀会の詳細について、決定しましたら同窓会ホームページにてお知らせいたします。ご不明な点は総務幹事松崎（0172-39-3804あるいはmma@hirosaki-u.ac.jp）までご照会下さい。



## 弘前大学校愛会について

学生・卒業生とのネットワーク形成を目的とした「弘前大学校愛会」が令和6年4月からスタートし、農学生命科学部同窓会も同事業に参画いたしました。これに伴い、同窓会員は校愛会の特別会員になるとともに、同窓会は校愛会への寄附金等を活用して事業を行う仕組みに移行しました。つきましては、同窓会員の皆様には、以前の会費（3,000円/年）と同額程度を校愛会へご寄附いただけますようお願い申し上げます。詳しくはホームページ (<https://hirosaki-u-kouaikai.alumnet.jp/>) をご覧ください。なお、寄附金には税制上の優遇措置が受けられます。税制上の優遇措置については、こちら (<https://fund.hirosaki-u.ac.jp/tax.html>) をご覧ください。



弘前大学校愛会 HP



税制上の優遇措置  
について

## 同窓生近況だより

### 「釧路市役所弘前大学同窓会総会」開催報告

私たちは北海道の釧路市役所に勤務する弘前大学出身の職員で構成された同窓会です。

本同窓会は平成28年に立ち上がり、その後コロナ禍により参集できない時期も数年ありましたが、この度5年ぶりに総会を開催することができました。

同窓会は現在総勢20名となっており、そのうち半分の10名が農学部・農学生命科学部の出身者となっております。また、今回総会に参加した会員11名のうち7名が同学部の出身者ということで、同窓会様から頂戴した弘大酒を囲んで大学時代（世代はさまざまですが）の懐かしい話題に花を咲かせる楽しい会となりました。誠にありがとうございました。

この会報を通じて、釧路市役所にはたくさんの楽しい仲間がいるということを在校生にも知っていただき、本市への入庁者が増えることを期待しておりますので、宜しくお願いいたします。



### 農工・土木 1982年度卒

同期会は、R6/9/13（金）18：00 弘前市本町の『佐和家』さんで盛大に開催。当初は1978年入学者25人を対象とし、参加を募っておりましたが、1学年先輩で卒業同期と、同年入学で1年遅れの卒業生までとなり、準備した横断幕の、1982年度卒業の前にマジックで“約”を追加、大笑いとなりました。参加者は北海道、東北と南は岡山、東京から、22名の同期、角野三好元教官の23名が集いました。残念ながら同期の3名が故人となっていることも判明。現在闘病中の元教官が出席できず残念がっている様子の報告や、自己紹介では、卒業以来42年ぶりの弘前、岩木山に感動した話がありました。40年以上ぶりの再会で、顔と名前を確認し合い、旧友を交えて、青春時代のばかやっていた頃の話、現在の生活や孫の話など、それぞれ話題は尽きず、にぎやかに、楽しく、あっという間に時間は過ぎ、惜しまれながらの閉会となりました。2～3泊して、変貌した弘前の街並み、当時住んでいたアパート周辺や、弘前公園などを廻っていきたくと語る遠方からの参加者も。5年後、70歳でまた企画してほしいの声、それまでみんな死なないようにと大笑い。おかげさま大成功の同期会となりました。ありがとうございます。



2～3泊して、変貌した弘前の街並み、当時住んでいたアパート周辺や、弘前公園などを廻っていきたくと語る遠方からの参加者も。5年後、70歳でまた企画してほしいの声、それまでみんな死なないようにと大笑い。おかげさま大成功の同期会となりました。ありがとうございます。

### 「弘大農工昭和46年 関東クラス会」

今年、同級生の井上さんのお店でクラス会を行いました。井上さんは、埼玉県庁を定年退職後、埼玉県深谷市でティサロンを経営されています。料理が趣味との事で、大変美味しい料理を提供して頂きました。どんなお店か、興味がある人も多く、北海道・秋田・鳥取からも参加して頂きました。参加者全員が後期高齢者ですが、資格を活かして働いている方、二世帯住宅を建設中の方、ロシア語を勉強している方、出版した本がアマゾンランキング1位になった方、野菜づくりをしている方、毎週ゴルフとテニスをしている方と多士済々です。北溟寮や合ハイの思い出話で盛り上がり、来年も皆元気で会おうと、日時を決めて名残惜しく散会しました。（小野恒）



### 「弘桜会」開催 (R6.8.2 / R7.1.28) のご報告



2024.8.2の集い



2025.1.28の集い

弘大農学生命科学部同窓会事務局さんから送っていただいた銘酒「弘大酒」を味わいながら、2024年8月2日、愛知県、岐阜県在住の農業土木工学関係の卒業生からなる「弘桜会」を開催しました。コロナ禍等でなかなか集うことができなかつた5年間の近況を報告し合うなどして懇親を深めました。また、2025年1月28日には、新たに(独)水資源機構職員と2025年度愛知県職新規採用候補者(青森県出身)を交え、愛知県の農業土木職の魅力などを熱く語りました。本会への愛知県職員の新規入会は、実に13年ぶりであり、会員一同、大変嬉しく思っています。

## 同窓会活性化事業

## 「弘大酒を囲んで同窓会！」

同窓会や出身研究室の仲間との飲み会などを企画する時が来ましたら、是非、同窓会事務局にご一報ください。会の様子の簡単なご報告やお写真を会報誌にご紹介いただくことを前提に、弘大酒をお送りいたします。参加人数が5名様以上の時は1本、10名様以上の時は2本(最大2本まで)を幹事様宛に送らせて頂きます。締め切りは設けておりません。出身大学のお酒を囲みながら懐かしい話に盛り上がりましょう。お待ちしております！

連絡先 同窓会事務局(次ページ参照)



## 事務局から

平成17-18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓生情報活用依頼書」を郵送でお送り下さい。様式は会報第23号（2005年6月1日発行）の10ページにあります。

同窓会ホームページ（<https://nature.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>）からもダウンロードできます。

また、転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報ください。

## 同窓会事務局

〒036-8561 弘前市文京町3 弘前大学農学生命科学部同窓会

松崎 正敏	電話 0172-39-3804	E-mail mma@hirosaki-u.ac.jp
栗田 大輔	電話 0172-39-3592	E-mail dkurita@hirosaki-u.ac.jp
成田 拓未	電話 0172-39-3622	E-mail tnarita@hirosaki-u.ac.jp

最新の情報は同窓会ホームページでご覧下さい  
 (<https://nature.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>)



## 訃報

(2024年度中に事務局に連絡があった方)

相馬駛春 様	(農学科 昭和28年卒)
佐藤竹郎 様	(農学科 昭和30年卒)
小原信實 様	(農学科 昭和31年卒)
鎌田健造 様	(農学科 昭和35年卒)
佐藤勝郎 様	(農学科 昭和36年卒)
橋本貞夫 様	(園芸化学科 昭和42年卒)

三浦邦康 様	(園芸農学科 昭和42年卒)
白川久隆 様	(園芸化学科 昭和43年卒)
畠澤国美 様	(園芸農学科 昭和43年卒)
伊藤忠仁 様	(農業工学科 昭和46年卒)
熊原和義 様	(農業工学科 昭和50年卒)
相馬精二 様	(園芸化学科 昭和50年卒)

上記会員のご逝去の報が届きました。  
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。